

2025年度データサイエンス教育プログラム(AIリテラシー入門)自己点検・評価報告書

様式4

大学等名 広島経済大学

自己点検・評価について(2025年度)

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

自己点検・評価委員会	
(責任者名)	石田 優子
(役職名)	学長 ・ 自己点検・評価委員会委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	2025年度についても前年度以前と同様に毎回の講義の始めと終わりにMicrosoft Formsを用いた受講前アンケート(受講生の前知識の把握のためのもの)と受講後の理解度アンケート(演習問題を含む)を実施した。アンケート結果から各受講生の講義への参加状況の把握、講義内容に関わる前知識の把握、授業内容の項目別理解度を把握している。それに加えて、半期に一度全学で実施される授業アンケートの結果と成績分布を用いて、各講の講義における問題点の把握だけでなく、講義全体を通した問題点の把握に努めている。その後、問題点の改善策(特に受講生に興味をもって積極的に講義に参加してもらえるような内容を盛り込むなど)を考え、次年度の授業で導入するようにしている。
学修成果	受講後の理解度アンケート(演習問題を含む)の回答、全学的に行われている授業アンケートの回答ならびに定期試験の成績のデータを収集し、そのデータを分析することで、各講ならびに授業全体としての受講生の理解度について把握している。また、受講後に興味をもつようになった授業内容を把握するとともに、上位学年になった時にさらに深く学んでみたい内容の把握に努めている。資料1にその結果を示す。2024年度と2025年度の結果を比較すると「データやAIが必要とされる社会的背景」に興味をもつ学生の割合が増えているものの、「データの活用事例」、「データの処理方法」、「AIの活用事例」への興味が若干減っているといえる。学生が興味を示している内容を授業に盛り込むこと、ならびに興味を示さなくなっている内容については授業での取り上げ方を工夫するなど授業の改善方法を検討する。 収集したアンケート結果の分析と今後の授業内容の検討に関しては、授業担当者だけでなくデータサイエンス教育プログラム推進ワーキンググループでも行っており、この分析・検討結果を受けて、プログラムの評価・改善につなげている。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	昨年度に引き続き、講ごとに受講前と受講後にアンケートを実施した。受講前アンケートでは、受講生の前知識の把握を、受講後の理解度アンケート(演習問題を含む)では、各講の授業内容における受講生の得意な項目とそうでない項目ならびに授業理解度の把握を目的としている。集計結果にしたがい、授業の理解度の向上に向けて、補助教材を準備するなど授業改善に努めている。また、全学的に行われている授業アンケートの結果からは、学生の授業への参加度合いによって分類されたクラス別のデータを分析することで、この授業にあまり興味を示していない学生の割合を把握するとともにそのようなクラスの学生に対しても魅力的に映る授業内容の検討につなげている。 次にアンケート結果の概要と特筆すべき点を示す。まず、受講後アンケート(演習問題を含む)の結果(授業内容理解度)を資料2に示す。多少の差はあるものの、ほぼすべての講において昨年度に比べ、授業理解度の平均点が下がっていることがわかる。作成したオンデマンドの教材ならびに演習課題が少し難しかったと考えられるため、次年度に向けて教材のブラッシュアップをする必要がある。 資料3の授業アンケートの結果より、全体の評価としては、若干下がっており、分類項目別で見た場合もAクラスとCクラスに分類される学生からの評価は少し下がっており、Bクラスに分類される学生からの評価は若干上がっている。
学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度	最終講に実施した受講後の理解度アンケート(演習問題を含む)において他学生に本授業の履修を推奨するかどうかを問うことで、その度合いを把握している。その結果を資料4に示す。2024年度に比べると2025年度の推奨度の平均値は若干下がっている。推奨度合いにおいて「強くそう思う」が若干減り、「どちらでもない」と回答した学生の率が高くなったためと考えられる。参考までに2023年度と比較した場合は、0.2ポイント高いといえる。 教育・学習支援センターに配置している情報チューデントアシスタントによる学習相談において、データサイエンスやAIに関心を示した学生に対し本授業の履修を推奨する取り組みを昨年度から実施し継続している。本授業の推奨度を高めるためには、より魅力的な授業を行うことが前提となるため、授業に対する学生のニーズを捉えながら授業内容のブラッシュアップにも力を注いでいる。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	本プログラムを構成する「AIリテラシー入門」の履修者数や履修率の向上にむけて、履修ガイダンスにおいて本授業のことを特別に取り上げてもらい、履修を促す取り組みを行っている。次に、本授業の授業内容や授業風景等の取材記事を本学のWebページに掲載し、本授業の認知度を高めることで履修者数を伸ばそうとした。また、履修者を増やす取り組みの一環である授業のオンデマンド化に関しては、昨年度と同様に一部オンデマンド化を行った。いくつかの取り組みを行った結果、2025年度の履修者数の目標である400名にはとどかず、昨年度とほぼ同数の311名になった。2026年度入学生からは当初の計画どおり当該科目を履修必須としているため、入学生全員(定員850名)が履修することになる。 それ以外にも受講生の傾向を把握し、授業内容や授業難易度を適切に設定するために本授業の担当者間による打ち合わせを頻繁に行っている。また、各学部から得られる授業内容への要望をデータサイエンス教育プログラム推進ワーキンググループにて検討し、授業内容を更新することで魅力的な授業作りを進めている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本学では、卒業生に提出させている進路報告書によって卒業生の進路をキャリアセンターが把握している。このプログラムを修了して2026年3月に卒業した学生96名の進路をキャリアセンターに確認したところ、そのうち18名が情報系企業に就職または情報系職種に就いていた。また、本プログラムの受講をきっかけに、AIやデータサイエンスの学びを深めるために大学院に進学した学生もでてきている。 まだこのプログラムを修了して卒業した学生数は少ないが、引き続きキャリアセンターと情報共有し、今後は企業からの評価、活躍状況についても調査する予定である。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	情報学を学んだ学生への求人は、IT関連企業はもちろんのこと、それ以外の業種においても増加している。業種を問わず、SNSや生成AIの活用、DX推進などの業務で情報リテラシーを身に付け、柔軟な発想ができる学生が求められていることがその理由である。 今後、本プログラムの修了生の就職先となっている企業や本学の授業科目である「インターンシップ」に協力頂いている企業・団体に対して本プログラムに関するアンケート調査を行い、産業界におけるニーズの把握に努めるとともに本プログラムに対する企業からの要望を伺いながら本プログラムを改訂する予定である。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	大学で行われている研究ベースの内容を扱うだけでなく、企業の適用事例について映像資料や画像資料をもとに解説することで受講生の身近なところにデータサイエンスやAIが存在することを理解してもらうように心掛けており、このような事例を用いた学習を通じて、データサイエンスやAIのことを学ぶことが将来においてどのように役立つかを理解してもらえるようにしている。また、座学で学ぶだけでなく、授業の中に演習を取り込むことで、データサイエンスやAIの手法に触れて楽しんでもらう機会を設けている。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	データサイエンス教育プログラム推進ワーキンググループにおいて、集計したアンケート(受講前アンケート、受講後の理解度アンケート(演習問題を含む)、全学的に行われている授業アンケート)の結果を分析し、受講生の視点も含めながら学生にとって興味が持ちやすく、理解しやすい授業内容になるように改善活動を行っている。今後、実施が予定されている企業アンケートの結果も分析対象に加える予定である。 ワーキンググループで行った改善活動の結果に基づき、2024年度のシラバスの内容から微調整を行った上で2025年度のシラバスを作成し、それに基づいて授業を実施した。